

金乗院

江戸時代（1603年～1867年）まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。金乗院は、現存する4つの寺院の1つで、現在の建物は1840年に建立されたものです。金乗院は、子どもの守り神であり、生きとし生けるものの救い主である地蔵菩薩を祀っています。寺院内の祭壇に祀られた仏像は、2人の子どもを両側に連れた神の姿を描いています。地蔵の左側の男児はじょうあくと呼ばれ、世俗的欲望に打ち勝つことを象徴する金剛杵（決して壊れない神聖な杵）を手にしています。右側の男児はじょうぜんと呼ばれ、純潔を表す蓮の花を手にしています。祭壇の周りの壁際には、数多くの小さな地蔵が祀られています。これらは千体地蔵（文字通り、「千体の地蔵」）と呼ばれ、無名の墓または世話をする人のいない墓に眠る、忘れられた亡き人々を見守っています。